



らせん階段をのぼるとそこは日本海



灯台へのアクセス

★鉄道・バス等

- ・JR山陰本線出雲市駅下車
出雲市駅～(一畑バス御崎線)～日御碕灯台下車
(約1時間)、徒歩約5分
- 出雲市駅～(一畑バス御崎線)～日御碕下車
(約55分)、徒歩約15分

★自動車

- ・山陰自動車道出雲IC～県道337号、県道29号
経由、約30分 徒歩約5分
- ・山陰自動車道江津IC～国道9号、431号、県道
29号経由、約1時間50分 徒歩約5分



< 参観寄付金 >

300円 (中学生以上)

小学生以下、障がい者 (介助が必要な方は介助者1人
まで) の方はいたしません。

< 参観時間 >

通 年 9:00～16:30

(3月～9月、土日等は17:00まで延長)

※土日等：土、日、祝日、休日、GW、8/10～19日

< 公益社団法人燈光会 出雲日御碕支所 >

〒699-0763

島根県出雲市大社町大字日御碕1478

TEL：0853-54-5341 (FAX兼用)

参観状況は下記のHPにてご確認
ください。

悪天候時は灯台にのぼれない場合
がございますのでご了承ください。

<https://www.tokokai.org/tourlight/tourlight12/>

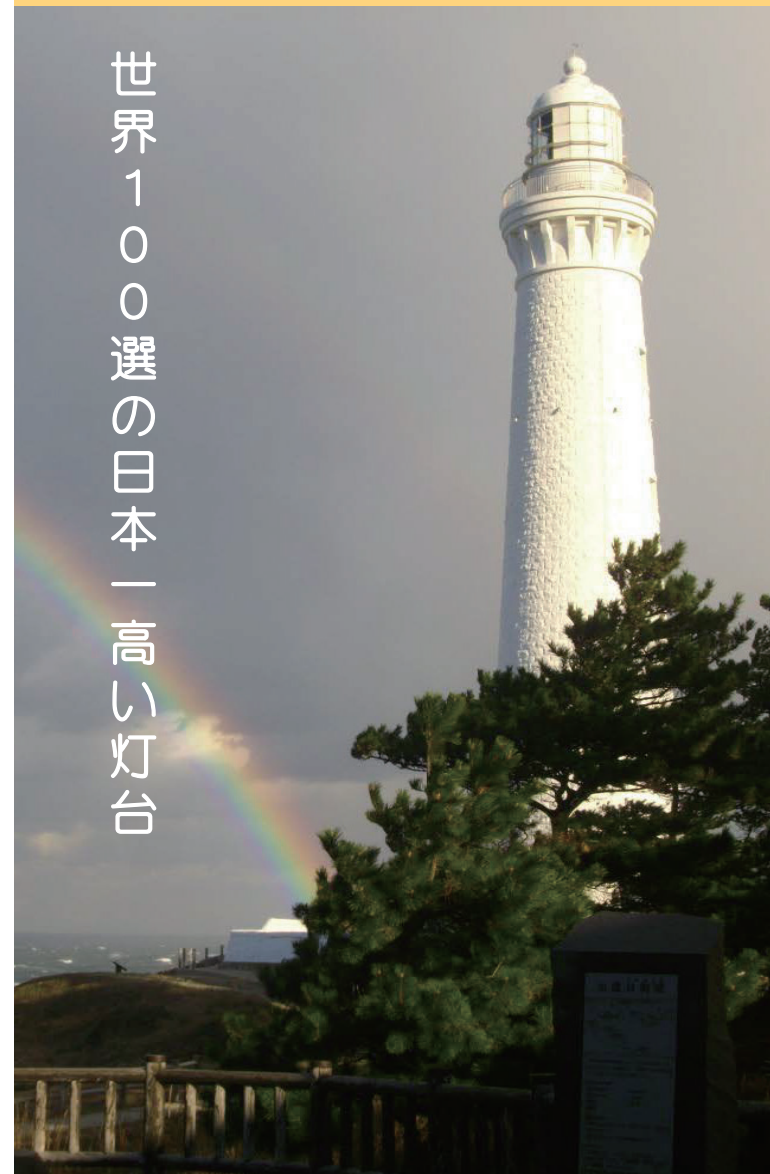


いずもひのみさきとうだい

出雲日御碕灯台

重要文化財

世界100選の日本一高い灯台



のぼれる灯台16の1つです

資料展示室

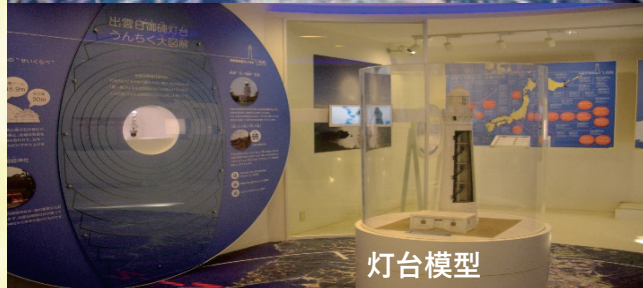
平成23年3月11日新装オープンしました。
展示室中央の出雲日御碕灯台体感パノラマを始め、グラフィックやジオラマによる灯台等の役割、仕組みや地域の特色などをわかりやすく紹介しています。



灯台アラカルト

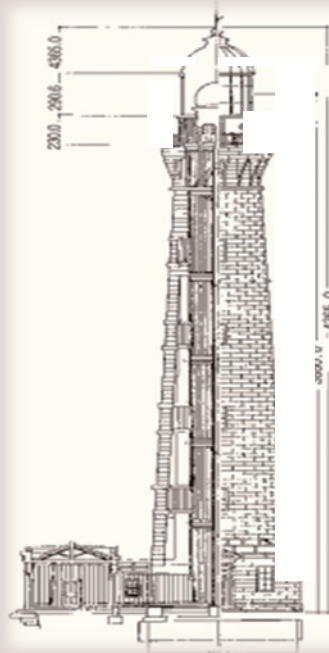


体感パノラマ



灯台模型

灯台の姿図



〔この灯台の概要〕

位 置	北緯 35度26分02秒 東経 132度37分45秒
塗色・構造	白色・塔形(石造) (灯台の色と造りのことです)
灯 質	複合群せん白赤互光 20秒に白2せん光、赤1せん光 (沖合の船舶から灯台を見た場合、回転するレンズから放たれる光を20秒ごとに 見ることができます)
光 度	480,000カンデラ (「カンデラ」とは、光源の強さを表す単位 です)
光達距離	21.0海里(約39キロメートルです。1海里 は1,852メートルです)
明 弧	24度から245度まで (明弧とは光が見える範囲のことです)
高 さ	灯台の基礎部から灯台の頂部まで 44メートル 平均水面上から灯火まで63メートル 地上から灯火まで39メートル
初 点 灯	明治36年4月1日

灯台の歴史

出雲日御碕灯台は、明治32年(1899年)に
浜田、境の両港が開港場に指定され、外国貿易が盛んになってきたことから大型沿岸灯台設置の必要性が高まり、明治33年から3か年をかけた大工事の末に完成しました。

この工事には、島根県八束郡森山から硬質の石材を切り出し、境港から海路54海里を運搬し、灯塔用材に使われました。我が国の洋式灯台建設の技術は、明治政府が招へいた外国人技師の指導のもとに始まったのですが、外国人技師は、明治10年代にはすべて帰国していますので、出雲日御碕灯台の設計、施工のすべては日本人の手によって行われました。

我が国は昔から城等を築いてきた経験があり、優れた石工技術を持っていたので、この頃には堅固で美しい石造りの灯台が各地に築かれていますが、この灯台は、建設時から我が国最高の灯塔の高さ(43.65m)を有する灯台として親しまれ、現在もなおその王座を守り続けています。令和4年(2022年)に、技術的に優秀であり、歴史的価値が高いものとして、重要文化財に指定されています。



レンガと石造りの構造